

新生キリスト教会とバルナバ

ペンテコステの日の聖霊降臨は主イエスの弟子たちに驚くべき変革をもたらした。第1は信仰の変革である。聖霊に満たされた弟子たちはユダヤ最高法院や権力者たちの迫害、おびやかしにも屈せず、神の言葉(主イエスの十字架と復活の福音)を大胆に語り続けた。こうして新生キリスト教会は120名ばかりの信徒から男だけでも5千人以上の集団にまで成長した(4:4)。

第2は生活の変革である。ペンテコステの聖霊は彼らの信仰だけでなく、彼らの生き方、彼らの道徳をも変革した。ルカはこう記している、「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだとい者がなく、すべてを共有していた」(4:32)。うるわしい愛の交わり、愛の共同体としての信徒の交わりが形成されていった。

貧しい者への愛とあわれみは、キリストの十字架による罪のあがないとゆるしとい出来事に表された神の一方的な愛に目覚めた者の当然の生き方であった。使徒ヨハネは言う「イエスはわたしたちのために命を捨てて下さいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。…世の富を持ちながら、兄弟が必要な物に事欠くを見て同情しない者があれば、どうして神の愛がそのような者の内にとどまるでしょう。子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう」(第1ヨハネ3:16? 18)。

最初の信徒たちの群れの中には、そのような愛に満ち溢れた人々がいた。その中の代表的な人物がバルナバである。彼の本名はヨセフといい、キプロス生まれのレビ人で、使徒たちから「バルナバ」すなわち「パラクレシスの子=慰めの子」と呼ばれ愛されていた。パラクレシスとは慰める、助ける、弁護するの意味である。

この語は新約聖書では重要な意味を持つ。それが人を表すとき「パラクレートス」となり、慰め主、助け主、弁護者と訳される。すなわち「パラクレートス」とは、共にあって、慰め、励まし、助け、弁護し、支え導いてくれるお方という意味である。聖書では、聖霊は「パラクレートス」と呼ばれ(ヨハネ14:16、26)、また主イエスキリストも「パラクレートス」と呼ばれている(第1ヨハネ2:1)。

キプロス生まれの信仰の人ヨハネも、その性格と生き方の故に、人々から「バルナバ」(パラクレシスの子)と呼ばれて愛され尊敬された人であった。彼は貧しい信徒たちのために自分の所有する財を売り、その代金をそのまま新生キリスト教会にささげた(4:37)。そしてその後、彼は福音のため自ら献身し、パウロと並んで初代教会を代表する伝道者のひとりとなった。

いつの時代にもバルナバのような人が必要である。いや、私たち自身が、人々から「バルナバ」と呼ばれる人になりたい。人々の慰めとなり、励ましとなり、助け、支え、希望となって歩む人になりたいと思う。